

## 可茂農林事務所の普及活動状況 令和7年7月3日現在

### ぎふ農業・農村を支える人材育成

#### ■果樹・山之上フルーツ塾 山之上フルーツ塾第1回修了式

美濃加茂市山之上地区では、令和5年度に山之上果実農業協同組合が主体となり、新規就農者の研修拠点「山之上フルーツ塾」を設立した。関係機関の支援のもと、令和5年6月から令和7年5月までの2年間にわたり、県外からの研修生1名が、あすなろ農業塾長の指導のもとで果樹栽培の研修に取り組んできた。

研修の修了にあたり、6月5日に修了式が開催された。式では、あすなろ農業塾長が2年間の研修を振り返るとともに、研修生からは支援を受けた関係機関への感謝の言葉と今後の就農に向けた抱負が述べられた。また、研修拠点を代表して山之上果実農協の山田組合長より、研修生に修了証書が授与された。来賓として出席した美濃加茂市および可茂農林事務所の関係者からは、激励の言葉が贈られた。

農業普及課では、今後も関係機関と連携しながら、果樹産地の担い手育成に取り組んでいく。

(園芸産地支援係)



【修了証書を授与される研修生】

### 安心で身近な「ぎふの食」づくり

#### ■ナシ・美濃加茂市山之上地区 ナシのハダニ類防除における天敵資材の実証

美濃加茂市山之上地区では、令和6年度から全国農業システム化研究会のIPM（総合的病害虫管理）実証調査として、ナシのハダニ類に対する天敵資材（ミヤコカブリダニ）を活用した防除の実証を行っている。令和7年度も実証を継続しており、6月13日に天敵の放飼作業を実施した。

放飼にあたっては、IPMへの理解を深めてもらうため、若手果樹農家にも参加を呼びかけ、当日は6名が放飼作業を体験した。農業普及課からは、天敵資材による防除の目的や調査内容について説明し、参加者の理解を深めた。今後は、農業経営課と連携し、2週間隔でハダニ類やカブリダニ類の発生状況を調査し、天敵資材の防除効果の実証に取り組んでいく。



【天敵の放飼作業】

(園芸産地支援係)

### ぎふ農畜水産物のブランド展開

#### ■管内水稻生産者 水稻における高温対策

令和6年産の水稻は高温の影響により、生産者の実収ベースでの収量が低かった。これを受け農業普及課では、美濃加茂市の水稻生産者の協力を得て、今年度から高温対応性品種の「清流のめぐみ」や「にじのきらめき」試験ほ場を設置し、地域における品種の特性把握を行っている。

また、6月10日に美濃加茂市三和地区において開催された水稻栽培研修会では、品種による対策以外に、高温時における登熟期の水管理、追肥（穂肥、実肥）、病害虫防除に関する情報提供を行った。

農業普及課は、現地巡回等を通じて、水稻の収量・品質の向上に向けた支援を継続する。



【研修会の様子】

(地域支援第一係)

## ■スマート農機のシェアリング 御嵩町

県では、令和4～5年度に、御嵩町の4つの土地利用型農業法人が参画した国スマート農業プロジェクトを通じて、関係機関と連携して中山間地域における土地利用型農業でのスマート農業の推進に取り組んできた。事業終了後は、乗用管理機のシェアリングの利用促進を中心に支援している。

今年度は、年度当初に利用規定や年間利用計画の作成を支援し、6～7月を中心に年間27日の利用を計画した。4月下旬より利用が開始され、当初予定になかった小麦防除や水稻除草剤散布に活用されるなど、6月23日までに計画を上回る29haで利用された。7月は水稻除草剤の散布適期で、利用希望が重なるが、利用日程や降雨等による日程変更などはSNSを活用して調整している。

農業普及課では、効率的なシェアリングによるコスト低減と、水稻の適正管理による収量・品質の向上が図られ、法人の収益向上につながる取り組みを引き続き支援していく。

(地域支援第二係)